

CSS 11000 レイヤ 5 のコンテンツ ルール

目次

- [概要](#)
 - [ハードウェアとソフトウェアのバージョン](#)
 - [レイヤ 5 コンテンツ ルールの説明](#)
 - [基本的なレイヤ 5 コンテンツ ルール](#)
 - [レイヤ5 コンテンツルールの問題を解決する方法](#)
 - [コンテンツ ルールの確認方法](#)
 - [コンテンツルールがなぜはたらいっていないか判別します](#)
 - [関連情報](#)
-

このテクニカル ノートでは、レイヤ 5 コンテンツ ルールの固有の動作、このルールが HTTP (ポート 80) 要求にどのように適用されるか、および レイヤ 5 コンテンツ ルールを使用して問題を判別する方法について説明します。

CSS 11000 のコンテンツ ルールは、トラフィックのロード バランシングに使用されます。本質的にトラフィックのレイヤ3、レイヤ4 およびレイヤ5 バランスをとるコンテンツルールには 3 つの型があります。これらの型の多くのバリエーションがあるが、各コンテンツルールはこれらのカテゴリーの 1 つ、および別様にこれらのそれぞれのコンテンツ サービス スイッチ (CSS) 取り引きに下ります。

ハードウェアとソフトウェアのバージョン

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- WebNS バージョン 5.0、ビルド 10
- ハードウェア バージョン CSS 11150

レイヤ 5 コンテンツ ルールの説明

レイヤ5 ロード バランシング 設定は URL に基づいて Webサーバにロード バランス Webトラフィックに Virtual IP (VIP) アドレスを使用することを CSS が可能にします。レイヤ 5 ルールは URL に対するユーザの要求を検査する必要があるため、CSS は接続をプロキシ、つまり「スプーフ」して、ロード バランシングに関する決定を行う必要があります。レイヤ 5 コンテンツ ルールで指定されている VIP に接続が送信されると、CSS はクライアントとの TCP ハンドシェイクを完了します。続いて、クライアントはコンテンツに対する要求 (GET /sample/index.html など) を含む HTTP ヘッダーを送信します。CSS はクライアントによる要求を評価し、ロード バランシングの決定を行います。

基本的なレイヤ 5 コンテンツ ルール

以下は基本層 5 コンテンツルールのサンプルです:

```
! ***** OWNER *****  
owner test
```